

岐阜県史跡 金山城跡第 2 次発掘調査の結果について

◎調査期間 平成 19 年 10 月 1 日～12 月 7 日

◎調査目的 本丸部分を取り囲む南・東・西腰曲輪（こしぐるわ）及び枡形虎口（ますがたこぐち）について調査を実施。

◎調査面積 調査範囲の面積約 3,285 m² 内掘削調査した面積約 168 m²

◎調査の成果

①南腰曲輪（みなみこしぐるわ）

- ・ 調査開始段階で地表に出ていた川原石（計 6 個）が、東西 2.4m、南北約 5.0mの間隔で置かれた建物の礎石であることが確認できました。一部動いている石もありましたが、一つの柱間が 2.4mで、2 間×1 間の建物であることがわかりました。礎石と思われる川原石は、直径 0.5m前後の大きな石が使われています。
- ・ 曲輪の東端に、2.4m間隔の礎石が 3 つ検出され、その延長上にも同様の川原石が検出されたことから、直線に伸びる塀もしくは建物の礎石ではないかと思われます。
- ・ 曲輪東側の斜面では、直線的に石垣が積まれていました。大きなもので幅 1.0mほどの岩が 3～4 段程残されており、北端では直角に曲がり、南端では岩盤に擦り付けられていました。



南腰曲輪全景（北より）

写真手前と中央の石列が 2.4m
間隔の建物の礎石です。



南腰曲輪集積遺構（西より）

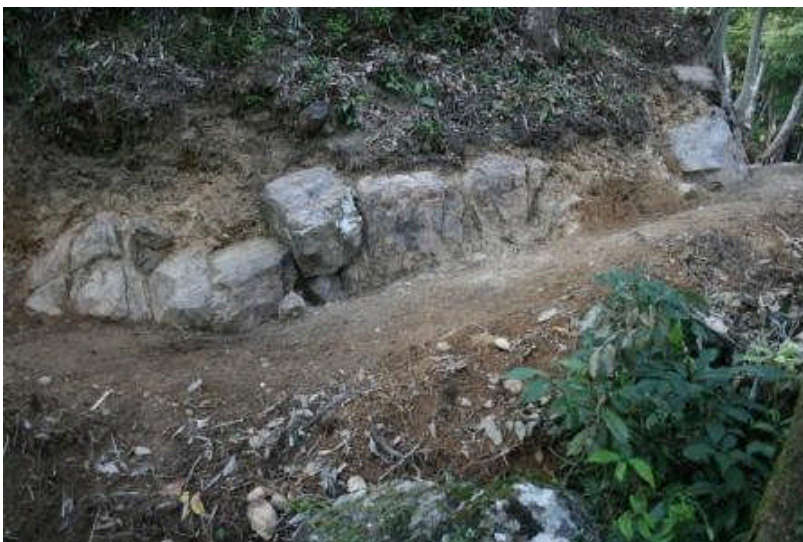
大振りの礫を円形に配置し、内部に小さな川原石が詰め込まれています。

手前に播鉢の破片が出土しています。



南腰曲輪東側斜面出土の石垣
（北東より）

東側斜面には、北端から南端まで、石垣が組まれていました。平均して2段で、比較的大きな岩が使用され、互い違いになるよう組み上げられていました。



南腰曲輪東側斜面出土の石垣
（南より）

南端は、自然の岩盤が利用されていました。

②東腰曲輪（ひがしこしぐるわ）

- 川原石の並びが、1.3ないしは1.8mの間隔でいくつもみつかりました。4間×4間以上のほぼ正方形の枠が想定できましたが、その内側には対応する礎石はなく、外周のみ柱が立つ建物が考えられます。この他に、直線に並んだ列や単体の礎石も検出されています。
- 本丸東側石垣の真下（井戸があると伝わる場所）から、南北約9.0m、東西約3.0mの枡形の遺構が出土しました。内側には石垣が長方形に積み上げられて巡っています。その内部には本丸部分の石垣で使用したと思われる巨大な岩や礫が落とし込まれていました。破城の際に埋め立てられた可能性が高いと思われます。



東腰曲輪枡形遺構全景（南より）

井戸跡と考えられていた本丸東側を発掘したところ、大きな枡形の遺構が検出されました。右にみられる川原石は建物の礎石です。



東腰曲輪枡形遺構中央部分
（北より）

枡形遺構内壁を造った際の埋め戻し状況です。おおよそ3層になっており、礫・小石だけでなく、古い瓦を投棄した層がありました。

③西腰曲輪（にしこしぐるわ）

- 曲輪の西側半分から、川原石の礎石が多数出土しました。約 1.8m 間隔で並び、3 間×2 間の建物があつたものと考えられます。また東西方向に設定したトレンチ内からは、瓦片がまともって出土しています。
- 北側の斜面からは、石垣が検出されました。この石垣は本丸北側石垣の 3 段目にあたるものの延長です。



西腰曲輪礎石建物跡（北より）

1.8m 間隔で 2 間×3 間の建物跡が検出されました。石の抜けた跡もあったので、より大きな建物が想定されます。



西腰曲輪北側斜面出土の石垣
（北西より）

④枡形虎口（ますがたこぐち）

- ・ 西側にある入口部分（虎口）からは、門の礎石と思われる平らな岩が、南北2ヶ所から各2個ずつ、計4つ出土しました。またそれぞれの奥まった所からは、この門に伴う川原石の礎石が左右対称の位置で出土しました。その周辺には礫を敷いた部分もあり、虎口の門の柱に関係した遺構ではないかと考えられます。



枡形虎口全景（北東より）

二の丸から腰曲輪を経て、本丸へ至るルートの入りに当たる部分です。大きな門があったとされています。門に使用された礎石が検出されました。



枡形虎口南側石垣（北西より）

トレンチ（溝）内部から小川原石と礫の集石を検出しました。

2. 出土した遺物

- ・腰曲輪内に設定したトレンチからは、カワラケ（素焼きの土器）、陶器片（施釉）が多数出土しました。ほとんどが小片ですが、形としては小皿、碗、すり鉢、徳利などです。また鉄片、釘、古銭、青銅製品なども出土しています。
- ・東腰曲輪の堀状の石積み（枡形遺構）の周辺では、多量の瓦片が層をなして出土しました。城が破却された際に、破損した瓦が棄てられた場所と考えられます。



南腰曲輪出土陶片及びカワラケ
種類としては、皿、碗、鉢（すり鉢）などです。



東腰曲輪枡形遺構出土の瓦片
非常にたくさんの破片が出土しており、大量に廃棄された状況が観察されました。

◎その他

- ①調査終了後、掘削作業を行った部分については、安全面などから埋め戻しを行いました。ただし、各所で検出された礎石建物については、形状がわかるようロープを張り明示してあります。
- ②東腰曲輪で検出された枡形遺構については、危険なため、全体を埋め戻しましたが、堀の外形がわかるよう地上に石列を組んで示してあります。